

第四期

パフォーマンス・エンハンスメント・コーチング
認定コーチ養成講座

第一回全体講義レポート



Liberty Coaching

TICEコーチ、苫米地式認定コーチ
リバティコーチング主任講師・主席研究員
高嶋 芳幸

先日、第4期パフォーマンス・エンハンスメント・コーチング認定コーチ（以下、TICEコーチ）の第一回全体講義が開催された。

私は、自分が受講生として参加した第1期から、これまですべての養成講座に入っている。どの期も例外なく、そこに集まった人たちだからこそ成立した唯一無二の素晴らしい場であった。しかし、今回はこれまでとはひときわ異質の雰囲気であったというのが私の率直な印象であった。それもそのはずで、受講者の多くは、コーチングを本格的に学び始めて日が浅いか、あるいは、ほとんどはじめてに近いという人たちばかりだったからだ。これまでの期の参加者は、それまでもコーチングを学び、コーチとしてすでに活躍しているような人が多かった。このことを考えれば、雰囲気が異なっているというもうなずけるだろう。私は、これが良いとか悪いとか言っているのではない。ただ、講座内の雰囲気の変化から、私たちが実践し伝えようとしてきたコーチングの広がりや、新たな展開を見せ始めていること強く感じた伝えたいのだ。もちろんそれに伴い、私たち養成講座運営側の実践の仕方、伝え方を大きく変えていく必要があるはずだ（コーチングを深く学んでいる人であれば、実践の仕方、伝え方が大きく「変わったから」このような展開が生まれたと言うこともできるとわかるだろう。すべては双方向性を持つ）。実際に、今回の第4期養成講座開講を受けて、私たちの進むべき方向性を大きく見直すという思考の動きがすでに出てきている。そして、具体的な新しいアイデアがたくさん生まれ、そのいくつかは実行段階に入っている。まさに、コーチングの理論通り、私たちのブリーフが書き換わった後に、演繹的に物理空間の判断や行動が変わったという状態だ。みなさんに新しい取り組みを開示できる日も、そう遠くないだろう。

さて、第一回の全体講座を通しての受講生の変化はどのようなものだったのだろうか。養成講座の中で、ルー・タイスが終始強調するのが、コーチとしての「あり方」だ。ルー・タイスは望ましいコーチとしてのあり方を徹底的に指導してくれる。そしてそのことは、講座の一番はじめに伝えられる。もしかすると、このことに面食らう人もいるかもしれない。ルー・タイスが教えてくれるのは、コーチングの知識や技術であると多くの人が想像するからだ。もちろん、知識や技術といったものもルー・タイスは十分に伝えてくれる。しかし、まず第一に、すなわち一番重要なこととして指導してくれるのは、望ましいコーチとしての「あり方」なのだ。

そのような予想外の出だしと、ルー・タイスの放つエネルギーに圧倒されたのか、当初受講生は少々面食らったかのような雰囲気だった。いい意味で、コーチングというものに対するそれまでのゲシュタルトが崩れ、新しい情報を取り込む準備が整ったと言える。後ろから私が受講生の背中を眺めていると、時間とともにだんだんと彼らの中に新しい情報が浸透していくのがわかった。明らかに物理的・情動的な身体があり方が変化していったのだ。ゲシュタルトが崩れ、ルー・タイスの持つ情報を取り込んだ形で統合されていったということだ。彼らの中には、

コーチとして自らを高めたいという確固たるゴールがある。だからこそ、ルー・タイスの情報に対する重要性は極めて高く、まるで乾いたスポンジが水分を吸収するかのごとく、このような変化が起きる。

手前味噌ではあるが、このような学びが可能なのは、ルー・タイスの教えがすぐれているのももちろんだが、私たちの設計した「場」が上手く機能している点も強調させていただきたい。私たちは、ルー・タイスの教えが受講者にダイレクトに届くような、言語・非言語の設計をかなり微細なレベルに至るまで行っている。理論的な背景はここでは書かない（今後どこかでレクチャーを行うかもしれない）が、それにはかなりの自信を持っている。それが機能している証拠に、表現は違うものの、多くの受講者は一様に、「場で学ぶ必要性がここに来てよくわかりました！」という感想を述べてくれた。その表情は実に晴れやかであり、すぐにでも何か動き出したいという衝動を感じさせるものだった。

しかも、このような受講生の学びの手応えは、これから先、日にちがたつほどにじわじわと高まってくるだろう。「場」が機能しているからこそ、無意識レベルでの様々な情報伝達が行われ、時間が経つ中で無意識の内部で新たなゲシュタルトが形成され、その後ある瞬間に自覚されるからだ。巨大なルー・タイスの世界を取り込んでいくための、いわば、無意識の宿題がたくさん出されているということだ。受講生たちは、今回受け取った情報をそれぞれの役割に必要な形で、これから一ヶ月かけて消化をしていくことだろう。次回の全体講義で変化・成長を遂げた姿を見せてもらえるのがとても楽しみだ。

今回報告したようなことこそが「場」で学ぶことの最大の意義であり、その臨場感が少しでも伝われば嬉しく思う。



Liberty Coaching

リバティコーチングのロゴは、LibertyとCoachingそれぞれの頭文字LとCを組み合わせたものです。そして、コーチの語源である馬車を模して、Cはクライアント、Lはコーチを表し、コーチがクライアントの望む目的地（ゴール）に連れていく様子を躍動感高く表現しています。